

## あなたは、良くなった

ヨハネによる福音書 5章 1節 ~ 15節

21 / 10 / 24

今、お読みした場面は、エルサレムになります。イエス様の目の前に、エルサレムが見えています。それは、この時期、エルサレムの街では、ユダヤ人の祭りを迎えています。この祭りに、イエス様は参加しようと、ガリラヤ地方からエルサレムに、上られています。ユダヤ人の祭りと書かれていますが、このお祭りが、ユダヤ三大祭りのどのお祭りであったか、その詳細は、明らかになっておりませんが、極めて特別なお祭りであったことには、違いありません。エルサレムに続く大通りは、人々で賑わっています。

その中にイエス様がいます。若い男性たちも、お祭りに心をワクワクさせて足速に、通り過ぎて行きます。ある者たちは、楽しみながら弾むような、足取りでエルサレムに入ります。

しかしイエス様は、突然、立ち止まります。イエス様だけは、一人、全く違う方向、足の向きを変えます、これがベテスダの池になります。ただ偶然にでしょうか。たまたまでしょうか。各地から大勢の人が、脇目を振らずエルサレムに押し寄せている中に、イエス様は、自ら関心を示されている・・・確かに、ベテスダの池から、何かを感じとおられます。イエス様だけは、ベテスダの池に向かいます。ここで、どんなことが起こっているか、気になります。本日のメッセージでは、ベトザタの池を、馴染みのあるベテスダという名前で進めさせていただきます。

ベテスダと呼ばれる池は、エルサレムの街の郊外、外側にあります。この池の周りには、囲い込むように廊下、つまり細長い回廊のような建物が立っている、これがベテスダの池になります。当時、このベテスダの池には、大勢の病人、目の見えない人、足の不自由な人、体が麻痺した人などが横たわり、溜まり場となっていました。ですから、エルサレムに続く大通りでは、お祭りのせいで活気に溢れる人々とは全く対比的に、誰も見向きもしないベテスダの池があ

った、ここにイエス様の目は、注がれます。イエス様は、今朝この礼拝でもお一人お一人を優しく見つめています。

ベテスダの池に向かわれたイエス様は、何をなさったのでしょうか。イエス様は、38年もの間、病気で苦しんでいる人に近づかれます。イエス様は、その人を見つめ『良くなりたいか』と呼びかけます。イエス様の『良くなりたいか』という言葉には、『私は、何とかしてあなたを救いたい。そのために、あなたのところにきました。あなたは、良くなりたいと思いますか？』という思いが込められています。『良くなりたいか』イエス様は、宣言します。しかし、この病人にとって、突然すぎる意外な言葉でした。自分の病気についての恐ろしさを全く知りもしない、ただの赤の他人の言葉で、この病人、男は無視することもできました。けれども、この男はイエス様の『良くなりたいか』に対して、返事をしません。それどころか、彼が打ち明けたのは、ベテスダの池について、になります。『水が動く時、私を池の中に入れてくれる人がいません。私よりもいつも他の人が、その池で癒されてしまうのです。』と言います。

実は、ベテスダの池には古くからの言い伝えがあります。それは時々、池の水が動くとき、真っ先に池に飛び込んだ者が、どんな病でも癒されるという、言い伝えがありました。この言い伝えが本当だったかどうかは、実際は明らかではありません。しかし、病人たちにとって、最後の頼みの綱になっていた、これがベテスダの池になります。ですから、病人たちは、この池に集まってきた、つまり池の水が、動くそのときを待ち続けてました。この男の頭の中も、この言い伝えのことでいっぱいになっていました。

ここで病人が、抱えていた苦しみは、何でしょうか。一つは、38年間の病気、体全体が麻痺する、苦しみに なります。二つ目は、この男がベテスダにまつわる言い伝えを信じ切っていること、つまり、池の中に1番に入って病気が癒やされる、そればかりを、考えていることにあります。実は、このベテスダの池にまつわる、どんな病気でも癒される言い伝えには、極めて危険なところがあります。それは必ず、1番になる者、と、敗者になってしまう者、この2つに分かれてしまうことです。ベテスダの池は、競い合い、戦いの場になります。しかもこの男は、起き上がることも、

体も動かすことができません。それゆえこの男だけは、敗者・負けが決まっているのです。このようなわけで、ここで男の苦しみの正体が一気に、明らかになります。この男は、ベテスダにまつわる言い伝えを信じている、そのせいで自分の負け・敗者になる失望感、敗北感が大きくなっている、つまり、自分を苦しめていることになります。これが、男の発した『誰も私を助けてくれないのです。』という叫びになります。敗北感は、いつも人を縮こませます。私たちの心を身動きできないように、苦しめます。『どうせ、お前はだめな人間だ。みんな、お前のことをダメな人間だ、と  
思っているんだ。』という気持ちに、私たちを追い込みます。そして、自分を責め立ていきます。まさに、私たちも『誰も、助けてはくれないのです。』と嘆く、この病人の気持ちが分かります。

しかし、この真っ暗闇の中にある病人に、大きな大きな光がやってきます。救いが、彼に目掛け、向かって来るのです。『良くなりたいか』イエス様の第一声が届きます。続けてイエス様は、『起き上がりなさい、床をかついで担いで歩きなさい』と、言われます。この『起き上がりなさい、歩きなさい』ということばは、横たわっていた者が、歩けるようになる回復する、それで終わりではありません。この病人の心、強い敗北感と挫折から奮い立たせる言葉でもあります。こうして男は、歩けるようになりました。このようにイエス様のなされた救いは、『あなたに良くなって欲しい』というイエス様の思いが、この病人に向かってくる、これが本当の救いになります。ベテスダの池に言い伝え 救いとは、全く正反対になります。救いとは、人が他の人よりも優れたことができたから、獲得できるものではありません。そうではなく本当の救いとは、主イエス様から、今の私たちに向かってくる、上から来きます。その救いを、ただ私たちは、いただくこと、これがイエス様の救いになります。本来であれば今ごろ、イエス様は、ユダヤ人の祭りをお祝いし、お祭りを気持ちよく楽しんでいただいていたことでしょう。しかしイエス様は、ベテスダの池に立ち寄り、この男の救いを優先し、喜んでおられます。

実は、癒された男の話には、続きがあります。この男は、ベテスダの池からエルサレムの街に入ります。今、神殿の中にいます。彼は、寝床を担きながら、歩いています。寝床とは、持ち運びができる今でいうゴザになります。しかし、神殿にいるユダヤ人たちが、突然、彼を呼び止めています。その理由は、この男の行為、床を担いで運んでいたことにあります。このユダヤ人とは、ユダヤ人指導者を言います。彼らは、律法を守る人たちでした。しかも、この日は安息日でした。当時、安息日には、寝床をもち運んだりする行為は、律法で禁じられていました。これに違反した者は、死刑に処される、これが掟でした。それゆえユダヤ人指導者たちは、律法 違反している!!つまり、寝床を運んでいる男を、捕えます。この男に、有罪判決が下されます。しかし、ここで一番悲しいことは、この男が38年、辛い病気をベテスダの池から、ようやく解放され癒されたことに対して誰ひとり、関心を示していないことにあります。この男の癒された喜びに対して誰も、気につけない、一緒にお祝いしてくれる人がいない、ことにあります。むしろユダヤ人たちの関心は、男を有罪判決にする、ことに向いています。こうした事態に男の頭によぎったのは、再び、ベテスダにいた古い自分、敗北感、敗者に引き戻されることを強く感じます。

今ここにクリスチャンとなられた 私たちは、人生のあゆみの中で時々、クリスチャンになるそれ以前の自分、古い自分に引き戻されてしまうことが時々あります。この男のように極端ではなくとも今私たちは、過去の・昔の自分、罪の痕跡がまだ、自分の心に残っている、という不安になることがあります。その結果、信仰が十分ではないと、決めつけてしまう、この男の恐れと似ています。

しかし、そこにイエス様の登場になります。イエス様は、この男がユダヤ人指導者から有罪判決を受け、ベテスダにいた時のように、再び苦しんでいる 男のすべてをご存知でした。イエス様は、もう一度、男に出会われ『あなたは、良くなった』と宣言されます。この『あなたは、良くなった。』という言葉は数時間前に、『良くなりたいか。』

というイエス様から聞いた言葉よりも、確信に満ちた言葉になります。イエス様の『あなたは、良くなった』この言葉には『あなたは、古い自分、のあなたに戻ることはない。あなたは、辛い過去、昔の自分を、引きずらなくても良いのです。』という意味として理解されています。

『あなたは、良くなった。』イエス様の言葉は、今の私たちにも語られています。私たちにとって『良くなった』という言葉は、どこから来るのでしょうか。どのように、はっきり分かることができるのでしょうか。それは今の私たちも、有罪判決を受けた38年の男と、変わりありません。今の私たちも、罪のゆえに、有罪判決を受けていたものになります。今、ここにいる私は、有罪判決を受けていた、立派な罪人でした。本来、罪のゆえに私たちは、神様の御怒りを受けるべきものでした。しかし、イエス様が十字架の上で、身代わりとなって神様の御怒りをすべて、飲み干してくださったのです。ですから、今私たちは十字架を見上げる時、イエス様の『あなたは、良くなった。』という救いの宣言をいただくことができます。このように私たちにとっての『良くなった。』という意味は、有罪判決から父なる神様との聖い交わりに移される、ことを言います。もっと言えば、『あなたは、良いものとしてあり続けます。』という確信的な言葉をいただく、これが『あなたは良くなった。』の意味になります。

今朝のこの礼拝に、主イエス様は臨まれます。主イエス様ご自身は、今朝の礼拝を通して『あなたは、神の子、全きものとしてそこにいます。』と語り、今の私たちを喜ばれます。

私たちは、自分の力、強さで、信仰の道を歩んでいるのでありません。私たちの人生を決めるのは、十字架のイエス様の『あなたは良くなった』という言葉をいただくことで喜びの人生を送ることができます。